

叫びと反響の記録

↓朝日新聞：1969年1月18日

警視庁

ガス弾か催涙液 死者出さぬ攻略に苦心

「実力排除」を主張した警視庁は、十六日夜以来、機動隊長らを集めて、何回も「安田トリテ」攻略の図上作戦をくり返した。講堂内に二トログリセリンはないことがわかり、ホツとしたものの、講堂内にはダイナマイトや危険な物品、六時間は投擲けられる石と、古タイヤのチェーンプでつくった石弓などがあることが確認され、これまででない強力な抵抗が予想されると、攻め方に苦慮している。

治安当局がいちばん警戒しているのは、衝突で死者をたす事だ。警察側は肉弾戦をたさないことはもちろん、学生側は死者がでてもごんごへの影響が大きいとみ、「死者をたさぬ排除」を目標に、二段構え、三段構えでさまざまな「秘策」をねらっている。

まず「催涙ガス弾」。これまでもデモ規制や、学潮紛争のパリケードを排除するさいに使われ、威力を見せた。

だが安田講堂では、九日の機動隊入りでガス弾の「洗礼」にこりた共闘会議は、安田講堂のほとんどの窓にベニヤ板を張りつけた。遠くからガス弾を発射しても窓を破れず、近づけば屋上から投石の雨が降る。それにガス弾が火

を呼んでベニヤ板に燃え移り、火事になるおそれもある。かりにガス弾がベニヤ板の窓を突破したとしても、なかのガソリンなどに引火すれば大変なことになる。

それだけに警視庁もガス弾使用に慎重にならざるを得ないようだ。

ガス弾が使えない場合、警視庁が考えているのは「催涙液」。放水車による催涙液の放水は、これまでも羽田や佐世保、成田で使われているが、時計合に向けてどれだけ効力を発揮するか。威力の強い消防ポンプ車の放水で窓のベニヤ板を吹き飛ばしておいてから、催涙液を灑しこむという戦術も検討されているようだ。

「カケヤ部隊」というプランもある。安田講堂は、正面の防備は堅固で、ミソもあつて攻めにくい。裏側は弱い。一階の窓も低く、機動隊が近づくと出て来れば、カケヤでいっせいに窓をぶち破って突入り—ということもありそう。ただ、その場合、屋上から石や危険物が投下され、警察側に被害が出るおそれがある。

機動隊は上空からヘリコプターで屋上にガス弾を撃ちこんだり、空襲一体の作戦で講堂に突入をは

ストの中の駒場祭か

予算面では困難な状況

駒場祭は二十二日(金)から三日間開催される予定であるが駒場祭委員会を中心に着々その準備が進んでいる。

十月三十日(水)駒場祭委員会は第六委員会との団交を行なった。大学からは寺田透教授のほか五名が参加したが駒場祭委は①学部当局は駒場祭委を駒場祭をになう唯一の交渉団体と認めよ②駒場祭委

に届け出た団体はすべて駒場祭の参加を認めよ③本年度の第十九回駒場祭は二十二日から二十四日まで

の三日間とする(二十一日午後は準備期間として保障)④教養学部は以上のことを大衆団交の場で認めよの四項目をつきつけた。

しかし学部側は現在スト中で駒場祭認めないが「勝手にやらせよ」という意向らしい」と駒場祭委

は語っている。今後は学部の代表との団交を追求して行く。

スローガンとしては①学部当局は四項目要求を団交の場で認めよ②共通規則遵守を駒場祭実現の許可条件とする学部の申し合せ方式拒否③学部当局は駒場祭規制を打破し完全な学生の管理運営による駒場祭をかちとろう④困大協路線打破⑤学部共通規則撤廃をかち

とらうの五項目を十月中旬にきめ

た。プログラムは十二日にできる予定であるがクラスに来ている人が少ないので販売ルートなどかなり困難でまた例年同家会から十数万円出ているが今年はスト中なので出してくれなく、大学側が例年出す三十万円も期待できないことなどから、財政的には厳しい状態。

企画は委員会企画とクラス企画五十八、サークル企画八十余りが出ているが委員会企画はサークルクラスの集約の上で①反戦、反安保闘争にむけて②大学の教育の変革③現代の文化運動を三本柱にシンポジウムを予定している。

クラス企画は質的には例年より向上しているが東大闘争と出席数が少ないため大衆性が欠けており①東大闘争②大学教育問題③マスコミ④安保沖繩の四つのブロック活動を通じてクラスに働きかけて行く。

また、サークル企画には趣味的なものに流れがちだから、サークルシンポジウムによりこれを克服して行くことが計画されている。

政府・東大動き緊迫 入試問題

首相、構内を視察

「授業再開の可能性も」



荒れた東大を見る佐藤首相

(左へ福田文相、加藤学長付付)

東大は閉校して約半年後、自民党政府による大学閉校問題が解決し、政府としての方針を決定し、17日午後、首相官邸で閣議を開き、入試問題についての決定を閣議で決定する。これにより、東大は1970年4月の入試から再開する。この決定は、東大の閉校問題に対する政府の姿勢を示している。また、佐藤首相は17日午後、東大構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。

佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。

「こんな姿に…」首相絶句

佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。

佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。

佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。佐藤首相は17日午後、東大の構内を視察し、荒れた構内を見ながら、授業再開の可能性も示している。

↓ピラ：1969年2月22日

429

69.2.22

勝利のためのシンポジウム

一再び闘いの原点を向う一 (その2)

2月22日 201 番教室

P.m. 1:00 ~ 5:00

出席；助手共斗 (最首悟氏)

「科学者運動について」

全斗連 (文系の人の予定)

「院生にとつての東大斗争」

主催；SⅡⅢ斗争委員会

後援；駒場共斗会議

現在、東大斗争圧殺にキョウホンを日共ニ民青諸君が当局と一

体となつて、学園正常化策動を押し進めんとしている。

東大共斗が真に同盟としてきた「学術研究の現代社会に於ける矛盾」をネジマゲて、独尊のミューチウリンナ科学論を媒介としてつ

つ、自主記座運動という形において彼等の学園民主化運動なる路線

を貫かせんとしている。

我々は、東大斗争が暴露した東大存在そのものの矛盾、その矛盾

の解決のために我々は何をなさねばならぬか。その原理論として言

うべきものをさぐる確立するために、我々はこのシンポジウムを設

定した。

東大斗争を長期にわたつて主体的に相うために、そして内実のね

架を勝ちとるために、全ての学友の結集を期待する。

原点を見つめることにより、この斗争を更に深化させよう。

